
君の花を僕に頂戴

夏目柚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君の花を僕に頂戴

【Nコード】

N9916M

【作者名】

夏目柚

【あらすじ】

また一緒にいたい。

ただ、それだけを思っていた。

願いたいのは、また貴方の傍にいたいということだけ。

その願いは、刻へと続く。

永遠と続く愛。

幾千の時を越えて

「…雨だな…」

その言葉は微かな声で、少年はずっと手を握っているだけだった。まるで男性を逃がさないように強く、握る。

男性は布団に寝かされており、痩せ細っていた容姿から見れば、もう長くはない。その隣で男性の手を握っている表情を変えない少年。だが、その無表情の裏の悲しい感情が手から男性に伝わっていく。

男性にとってそれが辛い。自分の事がわかっていいるから、「死にたくない」とおもってしまう。

そのうち、男性は思ふ事を口に出していた。

「一生一緒にいたい…」

男性の言葉のせいで少年は、何も言わないまま頷いているだけだった。そのうち、男性の手の力が弱くなっていった。少年はそれに気づき、もっと強く握る。

「…痛いぞ…」

少年はその言葉を聞くと少しだけ手を緩めた。笑顔を見せる男性。「すまない…やはり、無理であった…」

少年は唇を噛み締めながら、涙を堪えている。緩く握っていた男性の手が急に、強く握られて、少年もその答えに返すように握り返す。

「ごめんな……」

その瞬間少年の目からは一筋の涙が流れた。いきなり毀れたので、少年も何度も着物の袖で拭いた。だが、止まらなかった。

「泣くな…… お前はいつでも…… 俺の傍……」

男性が握っていた手が、解けていき地面に落ちる。部屋の中には落ちた音が反響して少年の耳に入ってくる。少年の心にそれが、どんなに残酷で辛いことかわからないで…。

少年は思った「また、この人と一緒にいたい」と……………。

その願いは幾度と繰り返される。少年も、そして男性も。

二人は繋がりがあっているからまた会える。それは変えられない。
心臓ココロに刻んだ思いが少年と男性を引きつける。

そして、また1つになる。

永遠と続く愛。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9916m/>

君の花を僕に頂戴

2010年10月9日03時31分発行